



インドネシア通信

パティンバン港の進捗

インドネシアの首都ジャカルタから東へ約120キロの地点で建設が進むパティンバン港は、昨年末に自動車船ターミナルの工事が完了しました。ただ、周りの道路の状況など不安点があり、一般的な利用はまだ先という見通しです。



コンテナに関してはまだターミナル運営会社の入札なども一切始まっていない状況です。もともとは「タンジュン・プリオク港における年間コンテナ取扱量が急増しており、数年のうちに取扱可能量の上限に達すると予想されている」こと、「慢性的な交通渋滞により、日系企業の工場が多く集積する首都圏東部の工業団地とのアクセスが悪い」ことからパティンバン港が完成すれば、首都近郊で利用できる国際港が増えるため、ロジスティクスの抜本的な改善になると期待されていました。

ただ「タンジュン・プリオク港の一部ターミナルの拡張工事が進んでいる」こと、「昨年に第2チカンベック高速道が完成され交通アクセスが大幅に改善された」ことから、パティンバン港への期待や需要が不明で、仮に両港に同時寄港してしまうとコンテナのバランスがうまく取れなくなるという懸念も出ています。

LCL手配時の注意点

インドネシアのCFS倉庫での作業料のうち、RT単位のものにはラウンドアップされて請求されるので注意が必要です。例えば5.001M3の貨物でも6M3として計算します。トラブルのもとになりますので、LCLのインドネシアのLCLドア案件がある場合には注意が必要です。

「大規模な社会的制限（PSBB）」の緩和が始まってから・・・

6/5から「安全で健康的、生産的な社会」に向けた移行期間が始まり、モールが再開するなどニューノーマルに向けた動きが進んでいましたが、7/2に過去最多を大幅更新してしまう新規感染者が「1624人」との発表がありました。特にスラバヤを中心とする東ジャワでは首都ジャカルタを超える新規感染者数を記録しています。



電車に乗る人たちの行列（感染者が増えるのも納得）



日本でも当たり前となったレジの仕切りが一部店舗で始まる



事務所のカウンターもニューノーマル開始